

## 4 企業会計

### 公営企業局

#### 水道事業会計

##### 主な収益の推移

(単位:千円)

項目	令和元年度 決算	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 当初予算	令和5年度 当初予算	前年度増減
給水収益	8,732,308	※7,762,052	8,681,492	8,603,526	8,543,648	△ 59,878
分担金	279,771	183,816	368,458	255,294	298,610	43,316

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、7月検針分から6か月間、基本料金の減免を実施

## 水道事業会計

### 尼崎市の水道

通水開始時期	大正 7 年	
配水能力	318, 573 m <sup>3</sup> /日	
配水管延長	1, 007 km	
給水戸数	250, 400 戸	
年間総配水量	52, 137, 000 m <sup>3</sup>	(前年度比 -1. 5%)
1 日平均配水量	142, 451 m <sup>3</sup>	
年間総給水量	48, 325, 000 m <sup>3</sup>	(前年度比 -1. 5%)
1 日平均給水量	132, 036 m <sup>3</sup>	
阪神水道企業団		
1 日平均受水量	122, 369 m <sup>3</sup>	(前年度比 +6. 1%)

#### (1) 水道事業の施設のあり方（浄水場の設備更新ほか）

52, 106

将来においても安定的に事業を継続していくため、自己施設である神崎浄水場を令和 12 年度以降に配水場化することを踏まえ、将来の投資や維持管理費用の縮減を図るなかで、安定供給に必要な設備保全を行う。

(133, 109)

- ・神崎浄水場再整備事業官民連携手法導入可能性調査
- ・神崎浄水場園田系沈殿池流量計更新工事 等



神崎浄水場 供用開始：大正 7 年

#### (2) 管路の計画的更新と維持管理

1, 559, 258

配水管は、「重要度」「老朽度」「耐震性」の 3 つの観点から更新の優先順位を定め、その整備工事を行う。なお、更新にあたっては、耐震化するとともに将来的な水需要の減少を考慮した管口径の見直しを図るなど配水管網の再構築を見据えて取り組む。

(1, 842, 506)

- ・配水管整備工事 11. 1km
- 基幹管路の耐震化率 見込み 52. 7%



配水管更新工事

#### (3) 配水ブロック化（市内配水エリアの整理）

-

災害時の迅速な断水解消や標高が比較的高い地域の配水圧の確保及び平常時の漏水の発見に効果的な配水ブロック化に取り組む。令和 4 年度末で 11 か所のブロック化が完了し、令和 5 年度には北西部地域のブロック化とその他 1 か所のブロック化を行い、令和 7 年度までに市内を 20 か所にブロック化する。

(14, 839)

- ・北西部地域のブロック化（系統ブロック化）
- ・大ブロック化（1 か所）
- ・水圧監視機器の整備

- (4) **鉛製給水管の解消** 200,815  
(169,845)
- 鉛製給水管は、水道水の長時間滞留で鉛成分が水中に溶け出すことにより水質基準を超過する可能性があり、健康への影響が懸念されることから、これの解消に向けた取組を行う。また、解消することにより漏水の発生件数を抑え有効率※の向上にも寄与する。公道部の鉛製給水管については、ビジョン期間中の令和10年度の解消を目指し取り組む。
- ・公道部の鉛製給水管の取替工事（601か所）
  - ・鉛製給水管の個別通知（14,000件）
- ※ 有効率は、浄水場から送られた水が、どれだけ有効に利用されたかを示す指標で、鉛製給水管の解消や配水管の更新など継続的な取組により、現在の約97%（令和3年度）から、国の目標値である98%を目指す。
- (5) **応急給水拠点の整備及び市民や地域との連携の充実** 26,081  
(27,993)
- 災害時に避難所となる小中学校等において応急給水栓（69か所）を設置し、既存の耐震性緊急貯水槽（7か所）と浄水場の配水池（3か所）と合わせて、応急給水拠点（79か所）を整備する。また、地域住民が応急給水拠点の開設を行えるよう、整備済みの拠点において定期的な訓練を実施していく。
- ・応急給水拠点の整備（5か所）
  - ・応急給水拠点での訓練実施（約15回）
- (6) **経営の効率化（ICT等を活用したお客さまサービスの向上と業務の効率化）** 7,935  
( - )
- ICT（情報通信技術）やデータ解析を用いて滞納整理業務及び受付業務の効率化を図るほか、すべての契約者に対する新たなサービスを創設し、お客さまサービスの向上とコストの最適化を目指す。
- ・自動音声（オートコール）やSMS（ショート・メッセージ・サービス）による案内のテスト導入
  - ・チャットボット（自動会話プログラム）の導入検討
- (7) **広報・広聴（ウォーターニュースあまがさき発行ほか）** 15,148  
(13,965)
- 市民のライフラインである水道、下水道の大切さを市民に改めて認識していただくとともに、事業に対する理解を一層深め、親しみを持っていただくため、広報紙「ウォーターニュースあまがさき」の発行などに取り組む。なお、令和5年度から市報あまがさきへの挟み込みに変更する。
- ・広報紙「ウォーターニュースあまがさき」の発行
  - ・公営企業局ホームページのリニューアル
  - ・市民まつりにおける啓発 等
- (8) **阪神水道企業団等からの受水に要する経費** 3,882,641  
(3,847,854)
- 用水供給事業者である阪神水道企業団（神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、宝塚市）及び兵庫県からの受水等に係る経費



応急給水栓とベンチ式倉庫  
(南武庫之荘中学校)



ウォーターニュース